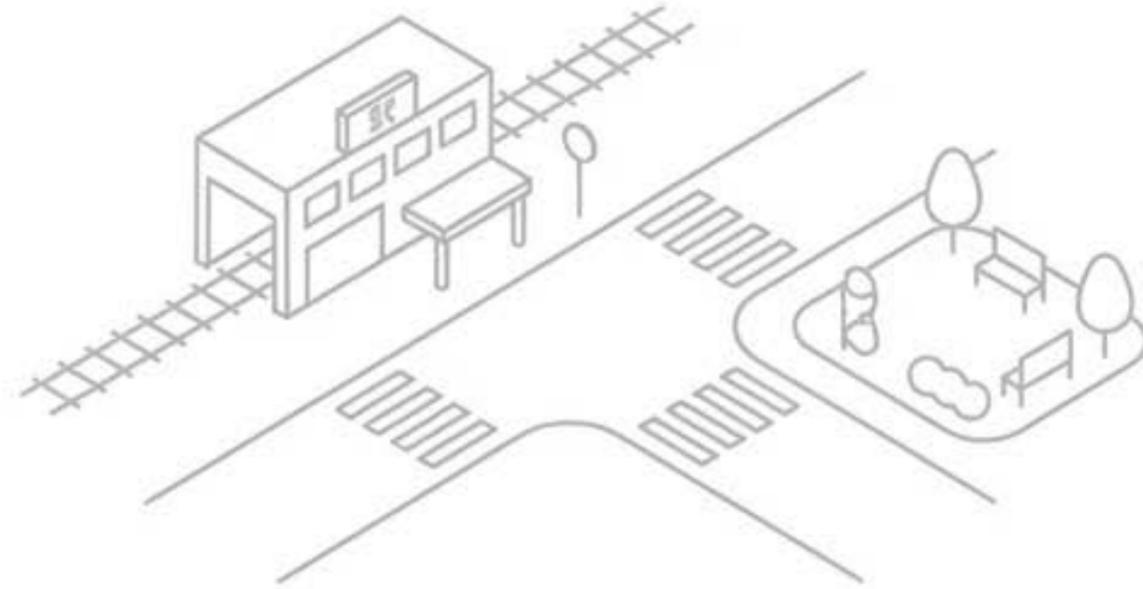


# 中田地区まちづくりアンケート 結果報告

作成：中田地区まちづくり勉強会 壁画プロジェクトチーム



2026年1月26日

# 1. アンケート実施の趣旨

## 背景

昨年、南仙台駅が開業100周年を迎えたことを契機に、一部の関係者だけでなく、地域住民の皆様の率直な思いを把握するために実施しました。

## 目的

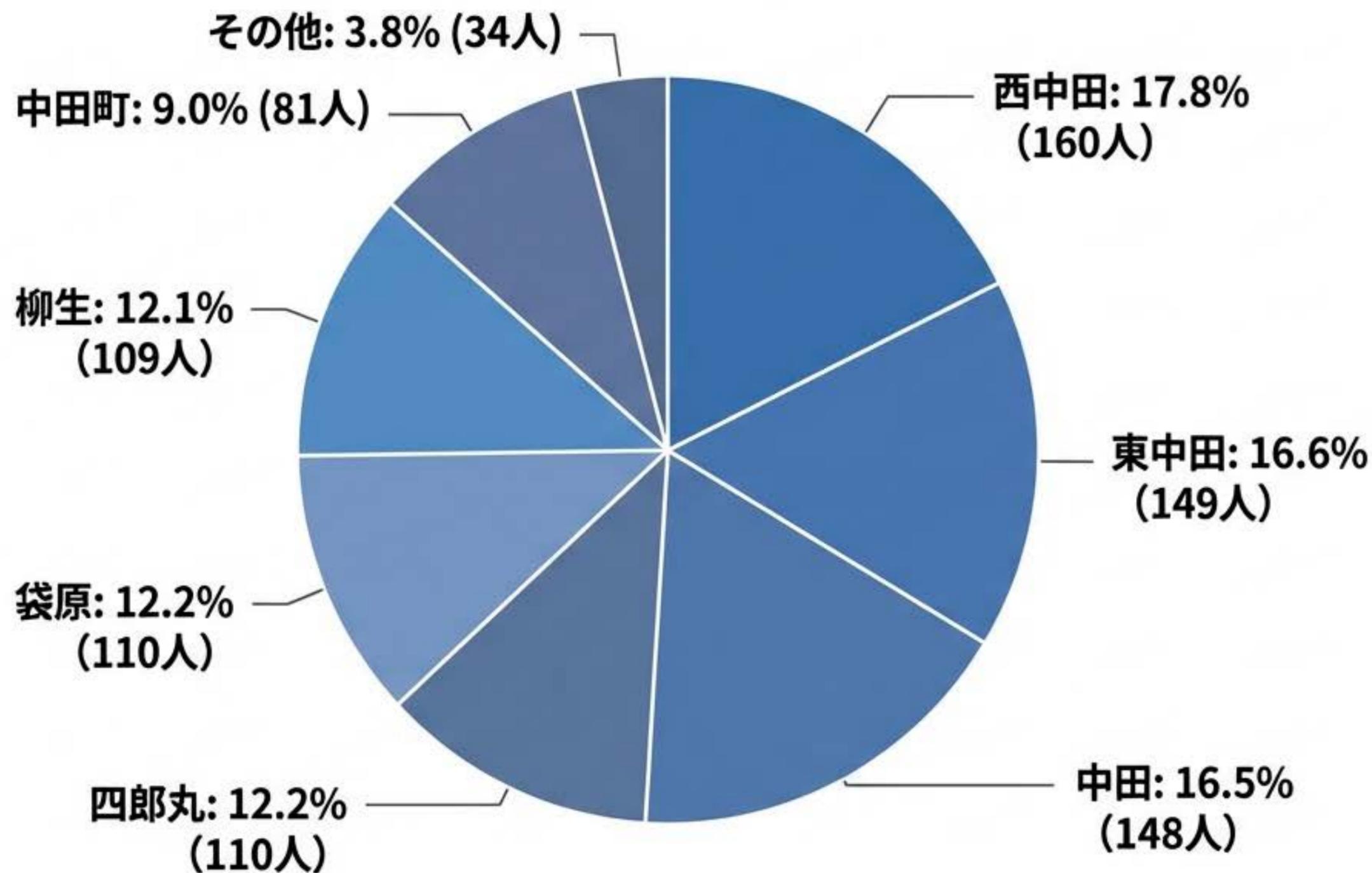
以下の3点を明らかにし、今後のまちづくりの基礎資料とします。

- 100周年事業と地域活動の評価
- 南仙台駅の将来像への意向（高架化か橋上駅化か）
- 地域特有課題の相対的な優先度

## 2. 対象と実施方法

調査対象	中田地区4連合町内会に属する全世帯（中田地区／中田西部／東中田／中田中部）
実施規模	合計2,500枚配布（全世帯数の約1割および公共施設への設置）
調査期間	令和7年12月1日～22日
回収数	<b>914件</b> （有効回答）
調査方法	回覧・配布、市民センター・コミュニティセンターへの設置による回答

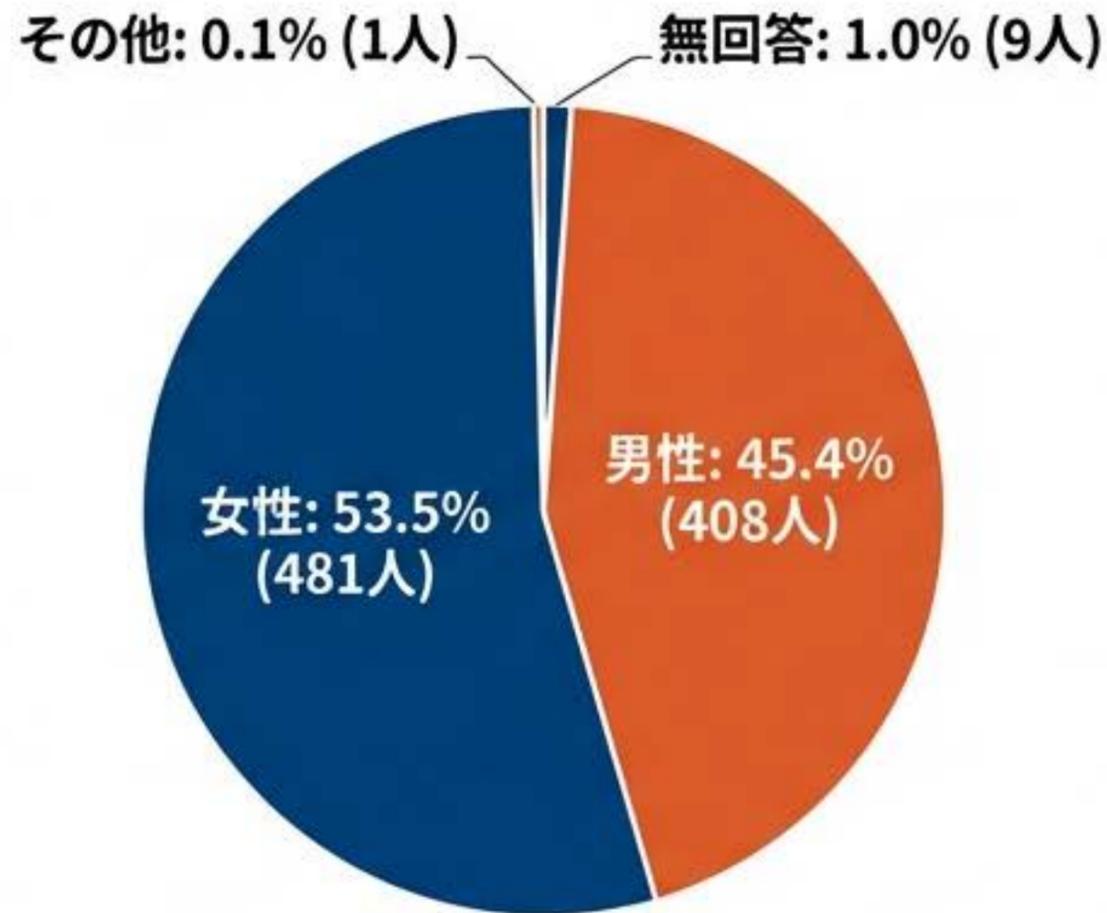
# Q1 居住地域



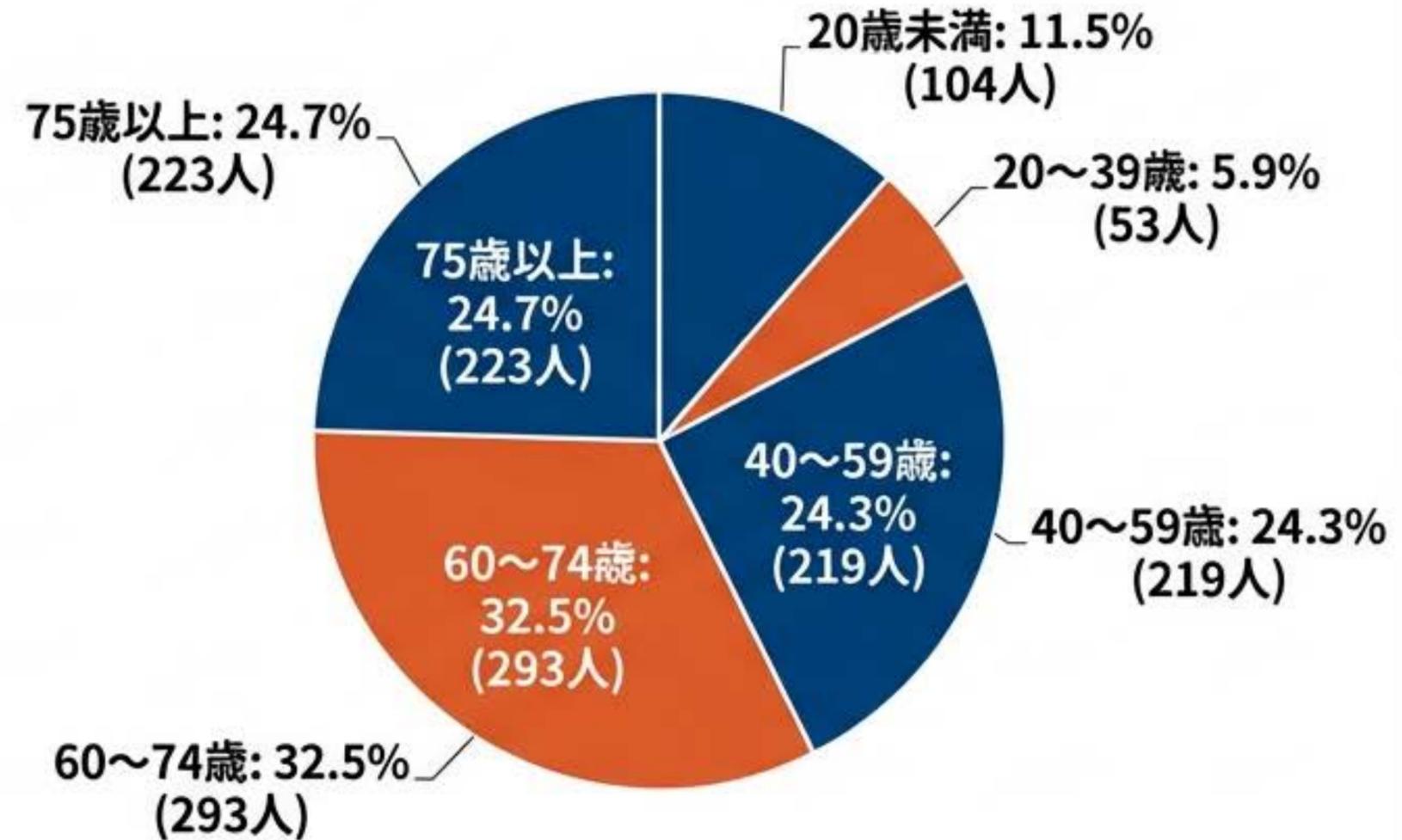
地区全域からバランスよく回答が得られました。

## Q2 属性 (性別・年齢)

(1) 性別 (n=899)

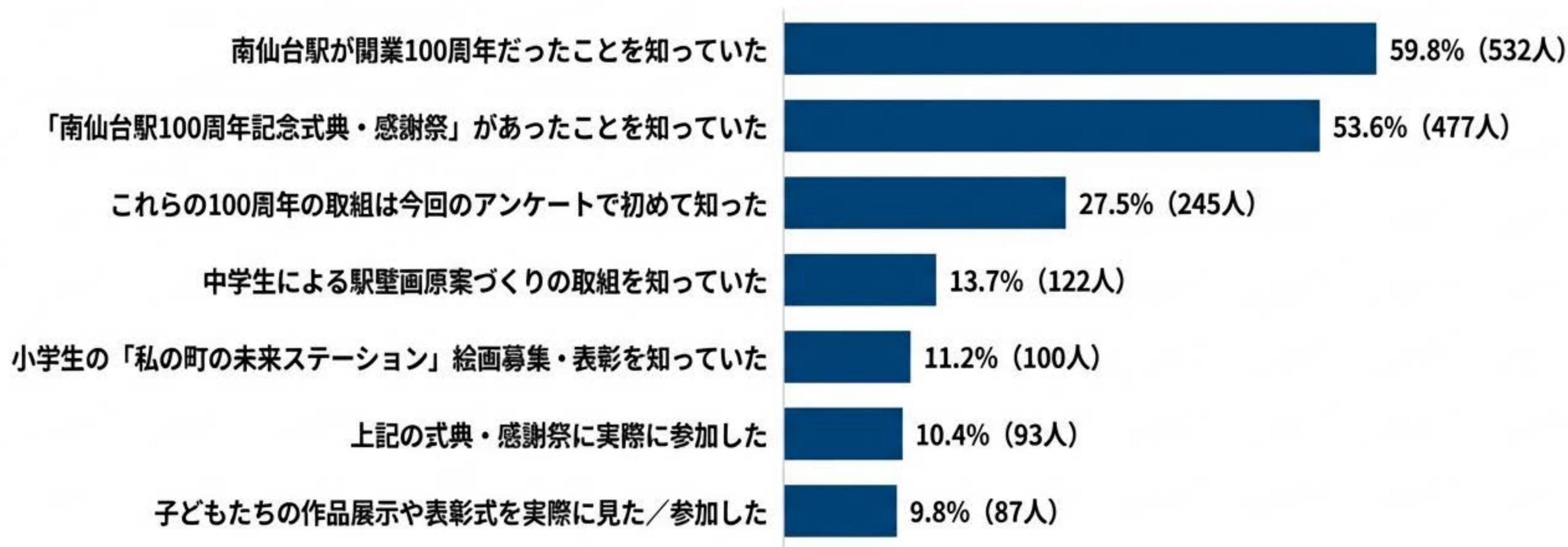


(2) 年齢 (n=902)



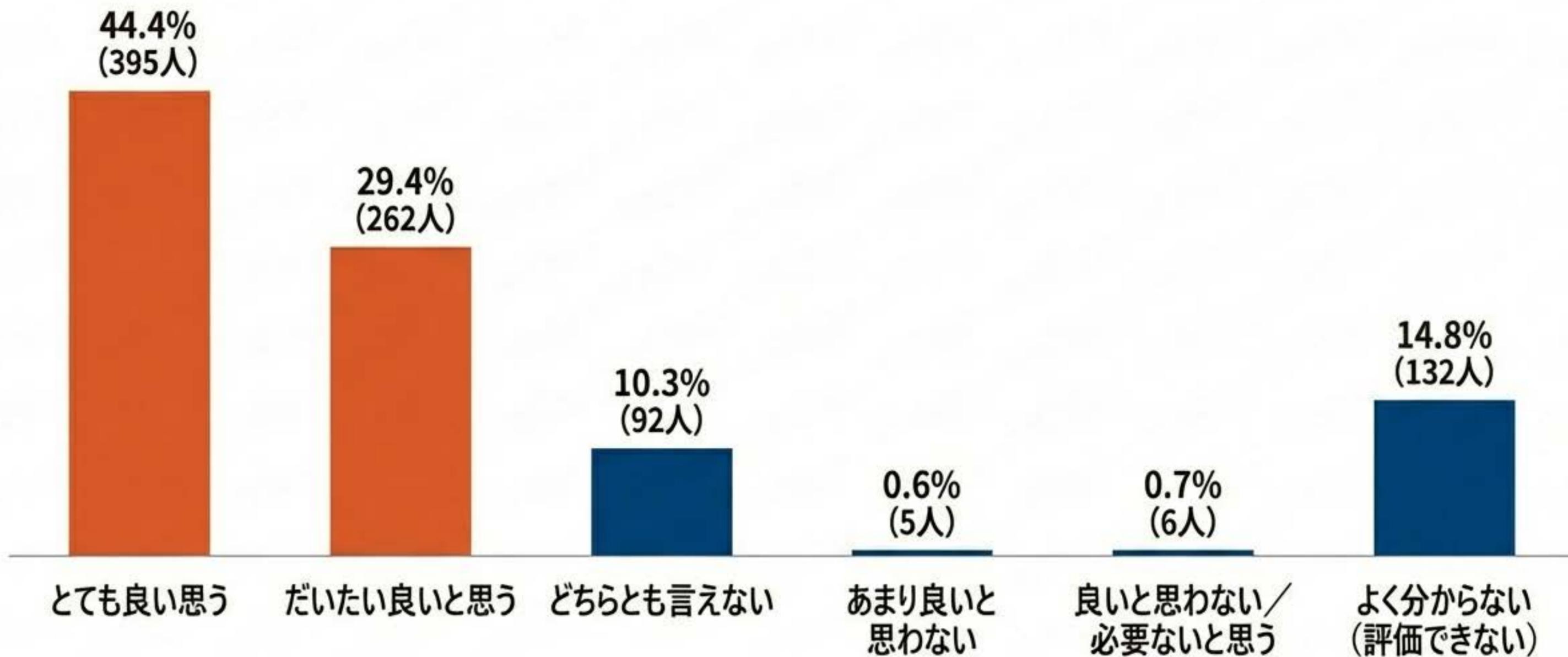
60代以上が過半数を占めており、高齢層の意見が中心となっています。

# Q3 100周年事業の認知・参加状況



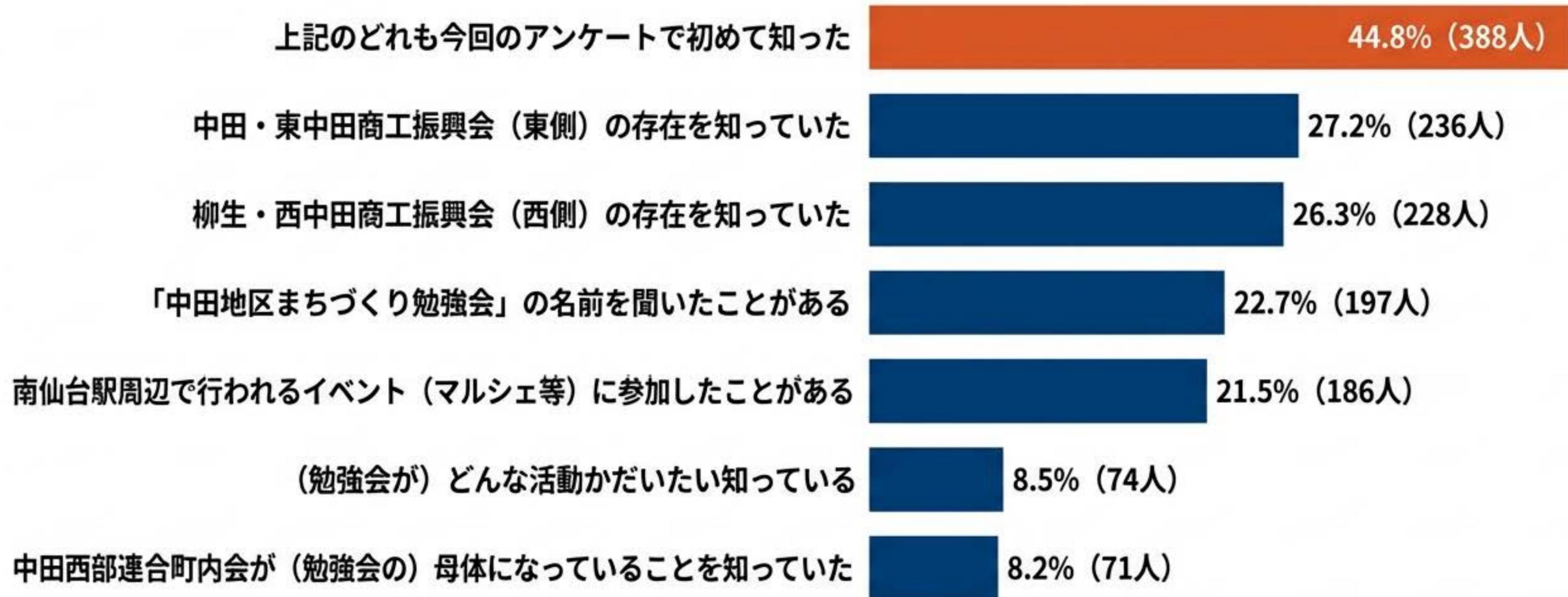
「100周年」自体の認知は6割近いものの、具体的な取り組みの認知や参加は限定的でした。

# Q4 100周年の取組に対する印象



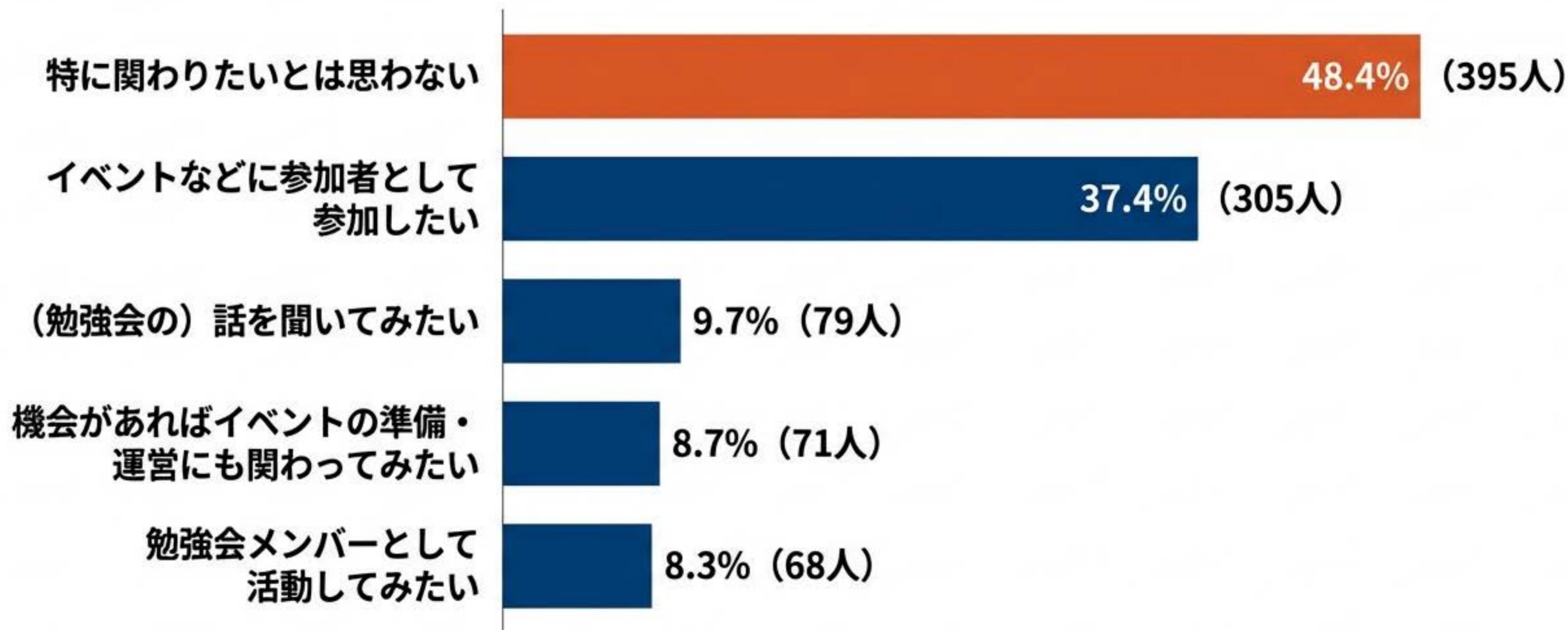
肯定的評価（とても良い+だいたい良い）が約74%と、実施内容は好意的に受け止められています。

## Q5 地域活動・団体の認知度



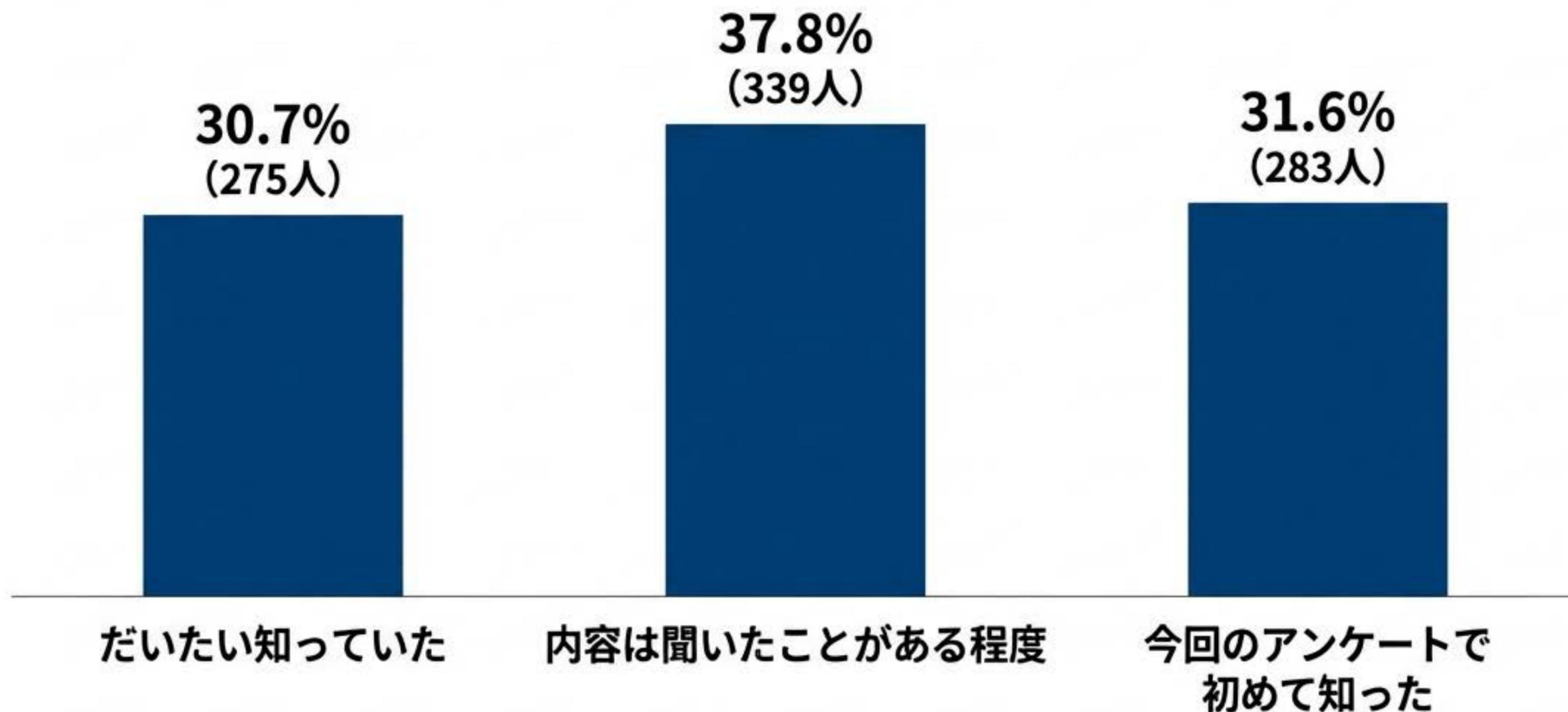
「アンケートで初めて知った」層が最多。勉強会の活動詳細を知る人は1割未満に留まります。

# Q6 まちづくりへの関わり方の意向



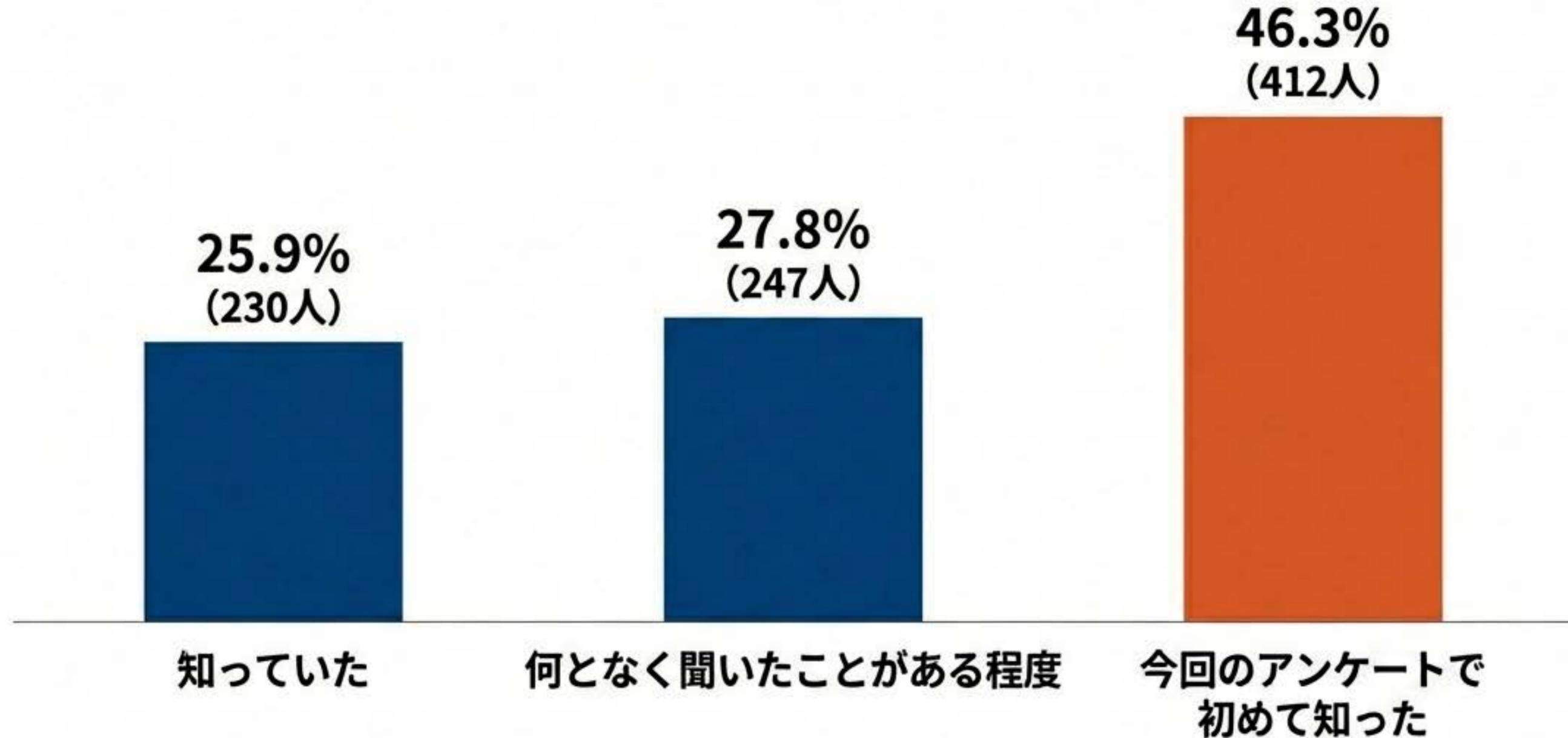
約半数は消極的ですが、3割以上がイベント参加には前向きです。

# Q7(1) 高架化・橋上駅化の話題の認知度



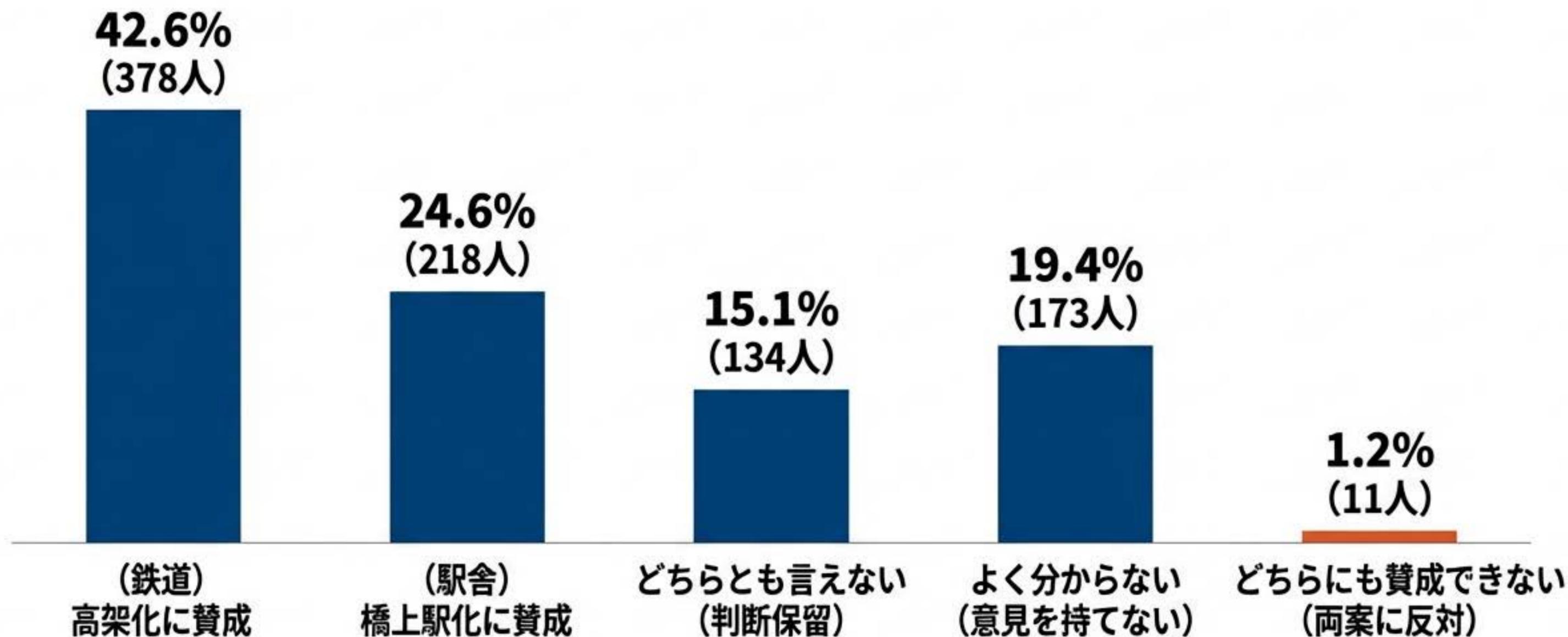
約7割が何らかの形で話題を耳にしていますが、  
「アンケートで初めて知った」層も3割存在します。

## Q7(2) JR東日本への調査委託の認知度



話題の認知に比べ、市が具体的に調査を委託している事実を知らない人が半数近くにのぼりました。

## Q7(3) 南仙台駅の将来像への意向（賛否）



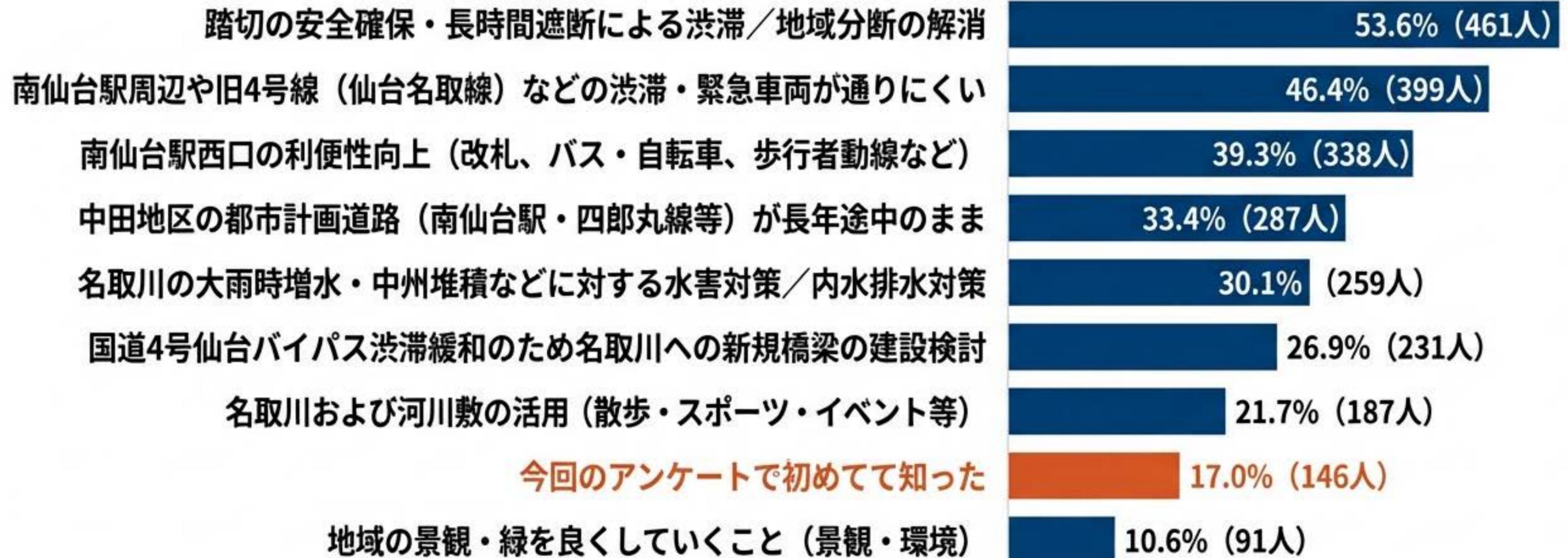
高架化への賛成が4割強と最も多く、橋上駅化を上回りました。  
しかし、「よく分からない」層も約2割存在します。

# Q8 中田地域固有の課題について

## 本設問の前提

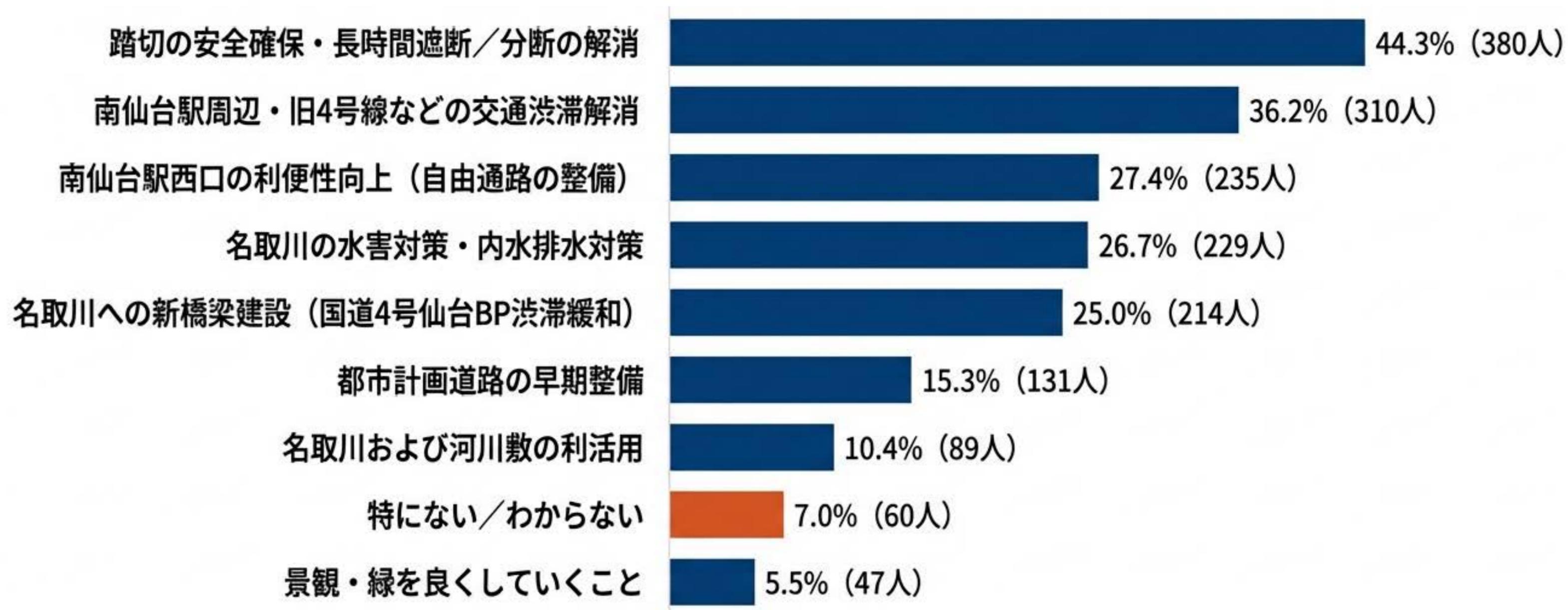
Q8は、市議会などで取り上げられている「中田地域固有の課題」を取り上げたものです。そのため、空き家、福祉、ごみ問題など「地域の普遍的な課題」は選択肢に含まれていません。この結果は、地域課題全体の優先順位を断定するものではない点にご留意ください。

# Q8(1) 知っている／気になるテーマ



踏切と渋滞問題への関心が突出して高く、約半数が選択しました。

## Q8(2) 特に大事だと思うもの



最重要課題としても「踏切」と「渋滞」が上位を占めますが、西口利便性や水害対策も2割以上の支持を集めています。

## Q8(2) 地区による重要度の違い

### 【西側】西中田・柳生

「南仙台駅西口の利便性向上」が最重要課題。

特に西中田では58%が選択し、踏切問題よりも優先度が高い。

### 【中央】中田（中部）

「踏切の長時間遮断解消」への関心が突出。

線路による地域分断の影響を最も強く受けている。

### 【東部】東中田・袋原・四郎丸

「名取川への新橋梁建設」や「都市計画道路」などの道路整備を重視。

四郎丸では約4割が新橋梁をトップ課題に挙げている。

## Q9 自由記述（その他のご意見）



Q8以外の「普遍的な課題（空き家、福祉など）」についても多くの声が寄せられました。

# アンケート結果のまとめ

## 認知と関心

100周年事業やまちづくり活動への潜在的な関心は高いが、具体的な活動内容や将来計画（高架化調査等）の情報が行き渡っていない。

## 交通インフラへの強い要望

踏切渋滞の解消と駅利便性の向上は地域の悲願であり、高架化への期待が高い（4割超）。一方で、地域により優先順位（西口開設 vs 新橋梁）が異なる。

## 多様な課題への視点

交通問題だけでなく、福祉、空き家、防災など、生活に直結する課題への対応も求められている。

今後のまちづくりには、地域ごとの特性を考慮したインフラ整備の議論とともに、情報発信の強化とソフト面での課題解決を並行して進めることが重要です。